勞働者階級の利益を裏切るものを葬れ

六月十一日研究社の製版部從業員四十餘名は、會社が震災後低下せしめた勞働條件の復舊と賃銀一割五分の增給その他最低限度の要求を提出して、總ゆる切崩し策に撓ゆむことなく、廿有餘日艱難辛苦を忍びつゝ闘へるだけ闘つたのである。然るに拘はらず、横暴なる支配人竹村氏は吾々の要求を踏み躙つたのみでなく、陰險なる術策と金權とを弄して遂に左の裏切りもの五名を出したのである。

歐文工　横濱市元町一ノ三三　加藤與之助
同　府下蒲田町御園五　成岡秀五郎
同　牛込區西五軒町一三黒澤方　松下岩太郎
同　横濱市三春町三ノ十三　佐藤國之助
和文選　日暮里字日暮里七一　吉村八十二

然し、假令あらゆる奸策を用ひられたにもせよ、敵の術中に陷つて味方を裏切ると云ふ事を吾々は默認することは出來ぬ。吾々は現在の制度の存續する限り勞働者と資本家との衝突は到底免がれぬ以上、吾々の戰ひは今度の爭議だけで終つたものではないのであつて、今後も所々方々に起り、おそらく研究社に於ても、亦再起すると云ふことを斷言して、憚からぬものである。斯る狀態に於て我々の利益を裏切り、自分一個の安寧を圖からんとするが如き人間は、個人的にも、社會的にも葬らなければ止まざることを茲に宣言し、全印刷勞働者諸君に通告するものである。

大正十三年七月四日

研究社爭議團